

巻 頭 言

精神科医もっと増やすべき

竹内知夫 日本精神神経学会理事
Tomoo Takeuchi

ここ数年小児科・産科・救急医の減少が社会問題化して色々とマスコミにも取り上げられている。病院勤務医の待遇改善についてもいろいろと言われ、今回の診療報酬は微々たるものだが10年ぶりにプラス改定となった。これで上記の問題が解決できるとは到底思えないが、少し前進したとは言える。肝心の我々精神科医療であるが、いつもおいてけぼりを食らい、隅に追いやられている。

昨今の情勢の中では精神科医は4%増加しているなどという論調も見られるが、忘れてはならないのが、一般科が患者16に対して医師1なのに対して、精神科は患者48に対して1である。少しぐらい増えたところで精神科医療の向上にはまだまだである。新医師臨床研修が始まってから、当院で研修する研修医に聞いてみると、「やはり偏見をもっていたんですね」とか「精神障害者も同じ人間だということがわかりました」などと今更という感想が返ってくる。

当院ではT大学の5年生が1週間、研修医が2週間実習に来る。また、他の基幹病院からは1~3ヶ月研修医がやって来る。年間40人近くの研修医の中で4~5人、60人近くの学生の中で7~8人は精神科医になろうという気持ちが固まったり、将来精神科を考えますと言ってくれる。しかしT大学には精神科病棟がなくなってしまったため、他大学の精神科に入局してしまったり、心療内科に入局したりしている。子どもから大人まで診られる所はそうはないよとか、関連病院で十分に成人の精神疾患も勉強できるのだからと話しても、なかなか入局にまで結びつけるのは難しい。一方県内の他大学で120床の閉鎖と開放の精神科病棟を持っている大学だとか、大学病院以外にもセンター病院を持っていて精神科救急医療に熱心に取り組んでいる大学は比較的に入局者が多い。大学そのもの、ある

いは精神科病院そのものが魅力ある後期研修の場として研修医や学生に映らないと、なかなか精神科医を増やすことも難しいし、一般科並みの位置づけを求めることも難しい。

学会でも専門医制度を発足させ今年初めての専門医試験を行う予定だが、申請者は50数名とのこと。全国80大学がある中での数としては少ないと思うが、まだ第1回目でもあるし様子見している精神科医もいると思う。個人的には少しハードルが高かったかなとも思う。なかには専門医より精神保健指定医を取るほうが先と言う者もいる。

まずは最低限のレベル確保から始めて、少しずつ上げてゆくほうがよかったかとも思う。今の大学で児童から老人まで全て専門家が居る大学はまずないのではないかと、指定医のレポートでも症例が集まらずに困っているということも聞く。3年間に経験する症例の内容について今一度検討してみる必要があるかもしれない。

この12年間に自殺者が連続して3万人を超えていると厚生労働省は騒ぎ、マスコミも大々的に取り上げる。うつ病のことは取り上げても、精神医療・精神科医のことにはほとんど触れられない。むしろ心理カウンセラーの必要性が叫ばれる。また、精神科は敷居が高いから、まずかかりつけ医・内科医にうつ病が診断でき治療できるように講習を行うよう言われている。精神科医の存在意義をもっと前面に出し、必要性をアピールすべきである。精神科医療の向上とメンタルヘルス対策の重要性をうったえ、精神科も身体一般科と同一の体制に少しでも早く持つてゆくためにも精神科医を魅力あるものとし、数を増やすことが必要である。